

出来事あれこれ

■約五百年ぶりに鰐口が里帰り



展示された鰐口

平成20年11月9日、山梨県の文化財に指定されている鰐口(わにぐち)が、田切地区公民館の文化祭に展示されました。鰐口とは、お宮やお寺の正面に吊るされていて参拝者がひもを引いて鳴らす音具です。

この鰐口は、銘文から、永正2(1505)年に為清という人物が信州伊那飯嶋郷田切村の大明神に奉納したものと見られていますが、山梨県に伝来している理由はわかっていません。

田切区民の熱意に応じて持参して下さった所有者の桜田久雄さんは、大勢の区民が集まる中、「絶対にあけてはならない」と伝えられていた神棚の厨子を家の建て替えのときに開いてみたらこの鰐口が出てきた、などの逸話を披露してくださいました。



大勢の観衆を集めた時代劇

■「お陣屋行燈市」夏に開催

冬の恒例イベントだった「お陣屋行燈市」が平成20年、夏に時期を移して7月26～27日に開催されました。会場はJ R飯島駅から国道153号にいたる通称「広小路」。舞台では、

「爆笑時代劇」や「お陣屋太鼓演奏」があり、江戸時代のお店(たな)が建ち並ぶ「楽市」の間を「代官行列」や「百鬼どんどろ一座」が練り歩きました。楽市では100円を1両に両替して買い物。

このお祭りの両日は、飯島陣屋は入館料を無料としています。さらに館内では、飯島陣屋友の会の皆さんが「ところてんを作って食べよう!」体験コーナーを設置しました。

■飯島陣屋で人形劇



人形芝居「ねずみのすもう」

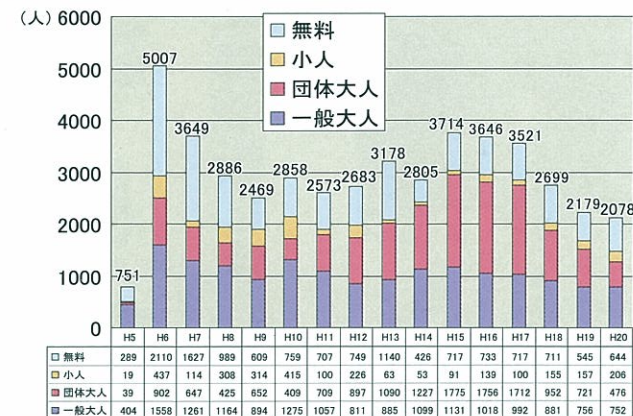
平成20年12月13日、飯島陣屋の書院で、人形芝居 燕屋さんによる肩掛け人形芝居が上演されました。小さなお子さんからおばあちゃんまで、ふだん陣屋に来たことのない皆さんも大勢見に来てくださいました。

このイベントは、「親子エンジョイ会」を立ち上げたお母さんたちが仕掛けてくれたものです。いろいろな皆さんに陣屋を利用していただけるとは本当に嬉しい限りです。

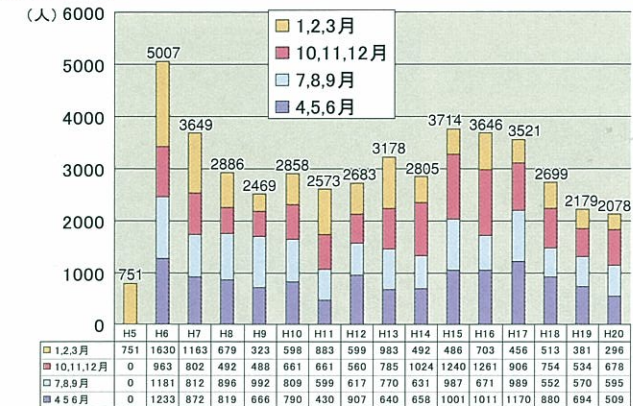
刊行物のご案内 飯島陣屋でお求めいただけます。
 ★飯島町郷土研究会編『ふるさとの昔話—第二集—』
 (発行/飯島町郷土研究会 B5判 230頁 2,000円)
 ★飯島紘著『飯島氏の歴史を中心とした飯島町の歴史』
 (発行/飯島氏顕彰会 B5判 75頁 630円) 残部僅少!

飯島陣屋の入館状況

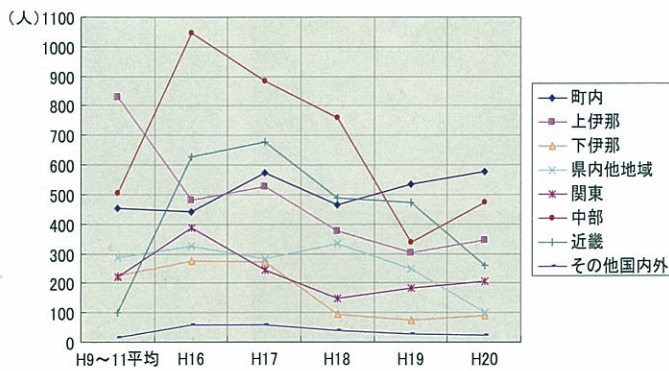
グラフ1 入館種別の入館者数



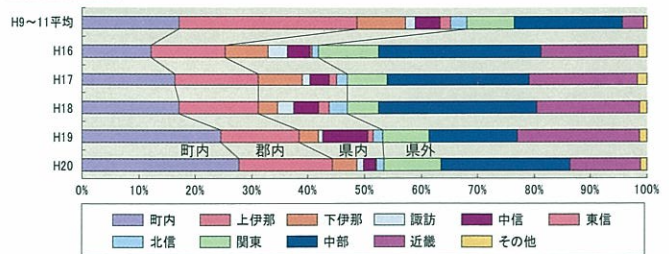
グラフ2 季節別の入館者数



グラフ3 居住地別の入館者数



グラフ4 入館者の居住地別構成比



《分析》平成15～17年度をピークに、その後入館者の減少が続いている。とくに中部・近畿地方からの来館者(その多くが旅行会社や近隣ホテルの紹介による団体)の落ち込みが大きい。町外からの入館者に比べると町内者は500人前後で安定しているが、内実は積極的に仕掛けている講座などの入館者が増加しているため。何もしなければ減少に歯止めがかからない状況。今後は見学による入館ばかりでなく、囲炉裏端での昔の調理体験など施設利用の促進を検討中。

飯島陣屋だより

No.14
2009.3

発行/飯島町歴史民俗資料館 〒399-3702 長野県上伊那郡飯島町飯島2309-1 TEL 0265-86-4212



飯島代官末裔の大竹敏雄さん(左)と、講師の西沢淳男先生(右)

演題は「代官もつらいよ」

西沢淳男先生の講演演題は「男はつらいよ」ならぬ「代官もつらいよ」。史実に基づいて代官や農民の素顔をあばいていただきました。代官という水戸黄門などの時代劇に登場する「悪代官」を想像してしまいがちですが、実際には「江戸の中間管理職」で、部下や農民に悩まされるつらい立場でした。いっぽう、農民は虐げられていて貧しく無教養というイメージがありますが、反対に、豊かでしたたかで、役人に対しては頭を下げながらアッカンペーをしていたような面もあったのです!

飯島代官の末裔をお招きしました!

講演の後には、飯島代官大竹庫三郎の子孫に当たられる大竹敏雄さんにも登壇いただきました。進行係が「世が世なら私たちはハハ〜とかしこまらなければならぬのですが」と水を向けると、「旗本の家だったというとは妻は反感をもったようです」と会場の笑いを誘い、穏やかに逸話を披露してくださいました。

夜の懇親会の席では、「先祖が関わった飯島陣屋が大勢の熱意で15年前に再現され、それを大勢の町民が守り立てていることが嬉しい」とおっしゃってくださいました。住民パワーで現地にこだわって再現したことを評価していただき、たいへん嬉しく感じました。

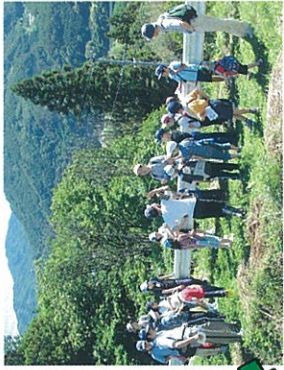
平成二十年十月二十六日、飯島町文化館で飯島陣屋開館十五周年記念の講演会を開催し、百二十人が熱心に聴講しました。講師は法政大学通信教育部の西沢淳男先生。また、曾祖父が飯島陣屋最後の代官を勤めた埼玉県在住の大竹敏雄さんをお招きしました。

飯島陣屋開館十五周年

飯陣屋に気ももりもり

平成十九年度、子供たちが一年を通していろんな歴史体験をしました。

縄文体験いろいろ
遺跡探検⇒土器づくり
⇒どんぐりを味わおう



遺跡で土器を探したり城跡を探検したり



3日間続けてあつく焼きができたどんぐり

「どんぐり餅」にして味わいました



火打石と火打石で火をつける



縄文人のワザを体験した土器づくり



楽しかった「ドラム年風呂」



土器は野焼きで焼成



ワナをしかけて山城を守る「岩間軍」



絵図を見ながら軍議



騎馬武者も参戦



かまど・囲炉裏で調理し、お膳でいただいた食事



箸とコップは竹で手作り



ろうそくの灯りで読み書きを習う

戦国動乱！本物の城跡で合戦 元気もりもり軍 vs 岩間軍



「元気もりもり軍」、出陣の陣の声



真冬の陣屋に泊まりこんで合戦の準備



山城の斜面でにらみ合う両軍



秘密兵器の「灰爆弾」が炸裂！



岩間軍を撃破し、見事に山頂の本丸を制圧した「元気もりもり軍」

かつての名産品 「岩間蕎麦」づくり



千穂こぎで脱穀したあとと藎真にかける



石臼で挽き、蕎麦水回にしました



江戸時代の人になって蕎麦の種まき



中央公民館「こがき学級」参加者の声

陣屋の囲炉裏で
おやきをいただきながら
昔の生活思い出しました。

■ 平成20年晩秋、囲炉裏をかこんで話かかずみしました。
■ 子供のころの生活、親との暮らしを思い出して、陣屋の囲炉裏を囲んでいたあのころを懐かしく思い出しました。
■ 戦前・戦後現代への変化はすさまじい。どの時代にも良いところ悪いところがあったが、今が一番良いと思つて生活している。特にトイレの変化は夢のようだった。
■ 数十年ぶりに囲炉裏の煙で目が痛かった。ワタシとオマを近くにみるのも久しぶり、火吹き竹も懐かしい。
■ 昔冬仕事に焚き物を取りに行つたことを思い出しました。囲炉裏火の温もり、一家の団欒の場でした。
■ 火の温もり、煙の匂い、昔は常にこんな生活だった。家族で囲炉裏を囲んで

いろいろな話をしたり、近所の人たちとお茶を飲んだ楽しい思い出がよみがえつてきた。
■ 予想よりたいへん楽しい講座で、出席してよかったと思つています。煙い囲炉裏でいただいたおやきとお茶はおいしいかつた。
■ 小さいころ風邪をひいたとき母が薬草を煎じて飲ませてくれたことを思い出した。昔の人は素晴らしい。今の若い人たちが学んでほしいと痛切に感じた。
■ 子供のころを思い出しました。ちょうど今頃は恵比寿講で米の粉で塩味の小豆を入れて母がお焼きを作つてくれたこと、囲炉裏で秋刀魚の骨などを焼いて食べたこと。囲炉裏は座る場所が狭まっていたように思います。女の人はお勝手のほうの板の間へ座つていました。
■ 昔は嫁さんは下圍炉裏でお茶番でし

たが、現在は嫁と親が入れ替つたような気がする。
■ 今陣屋へ来て私は左隣の隣に座り、はつと考えるとここは嫁の座る所ではないと思ひ下座に移りました。
■ 自分たちが育つたころは食料も乏しく、囲炉裏で柿を焼いたり、いも干しを焼き、七人兄弟で取り合い、分け合つて食べました。今思えば懐かしい思い出ばかりです。
■ 久しぶりに囲炉裏を囲んで昔の子供のころを思い出出すことができてよかったと思ひました。今も一家団欒の雰囲気はほしいものです。
■ 囲炉裏の懐かしさ。昔は杉葉の灰で頭がゴミだらけだった。
■ 久しぶりに囲炉裏を囲んで昔さんの懐かしいお話、一番前はこの間のように感じました。毎晩は風呂に入れなかつたころ、近所の人たちを風呂に誘い、大人たちはその後の夜長を漬物でお

茶を飲むのを楽しみにしていたようです。果物のなかつたころは柿を囲炉裏で焼いてのおやつも懐かしい思い出です。
■ 昔は囲炉裏の周りで家族中でお茶を飲むことが当たり前。座敷場所も狭まっていた。お父さんを中心に立ててみんなで分け合つて年寄りを大切にする気持ちが強かつたです。
■ 昔は冬になると囲炉裏を囲んでのお年寄りとお茶のみに行つたり来た。漬物などでお茶を飲んだ。
■ 父はいつも囲炉裏のそばで煙草、草履、俵などを作つていました。学校から帰ると母は囲炉裏のおきの上にワタシをおき、お餅やサツマイモを焼き待たせてくれて、父も手を休めて皆でお茶を飲んだものです。